

去年4,000人ぐらい全国から視察が来るんですよ。これ団体ですよ、登録で、予告で来る人たち。リピーターといって「行ってみたい」とメディアがね、テレビ、新聞が報道すれば、だまされないでくださいよ、報道は大きくしますから、柳谷に来たって「あれえ」ってなりませんから。そうやってくるとね、何千人という人が柳谷に来る途中で、柳谷は国道220号線から2.5キロのところの畑のど真ん中にあるんですわ。そうすると、「指宿から来ました」といって来るけど、畑のど真ん中で「どこやろか、柳谷」と聞こうとすると、畑にいる草取っているおばあちゃんとかおじいちゃんしかいないわけ、聞くところは。家も何もないから。そうすれば中尾ミエさんに聞けば、「私の後ろからついてきなさい」と言ってヘルメットをかぶって、そのまま手も真っ黒で、単車でブーツと来て、公民館に来て、運動遊園に来ていなかったら私のところまで連れてきて、「哲ちゃん」と言うわけ。「どうしたの」と言ったら、「指宿から来やったど」と。そのときです。家内は「リポビタンでもあればあげるのよね」という感覚ですが、違うんです。人っていうのは物じゃないんです、心なんです。だから、私は柳谷におるとき、いつもタオルをぶら下げているんですわ。来られて、案内してきたおばちゃんにここをふいてあげるだけや。皆さん、できますか。

子供や孫が失敗したり、何か機嫌の悪いときに一番行きそうなところは、まず一番優しいばあちゃんのほうへ逃げていくわね。そのときに「よしよし、何かあったらおいで」って言わないでください。これが大きな間違いなんですわ。大切なのは親よ。「じいちゃんのことでは私はいっぱいよ。あんたはお父さんに聞きなさい」と追い返すぐらいの時には激励と勇気と度胸を持たないと、子供や孫は遊びの上手の次は作戦士なんですわ。皆さん、そう思わない？

私、6人孫がいますよ。正月に来るとき、まず前に来るのは、ハッ、タッと来る。お年玉や。一向やらなかったら物を言わんから。袋に入れてあげてごらん。3歳だから1,000円でよかろうと思って、封もしないで「はい、かなちゃん」とやれば、あけたらポンとする。

「1,000円だ」と言う。こんな社会、おもしろいけれども、やっぱり親のしつけなんですわ。

だから、子供や孫は本物の感覚をいかに見せるかということなんですわ、本物の感覚。あわせて意志力。転んでも自分で立ち上がるというこれをやらなかった子たちは、指示待ち人間に変わっていくんですわ。だから、親は、勝負は小学校に入るまでです。

さあ、これから時間までぐーっと流れるから、



今度は目の養いですよ。

柳谷の底力の不満は、ゲートボール場がないと言われたから、私がこの運動遊園を埋め土からしました。20アールあります。埋め土から、設計から、一山どうぞという丸太切り出しからみんなでつくって、捻出は、この高校生クラブが「おじちゃん、おばちゃん、飛行機に乗って東京のホテルに泊まって、オリックスのイチローの野球を見に行くために軍資金が欲しいんです。畑貸してください。芋植えますから手伝ってください。芋づる取りにきてください」と、高校生が僕が書いた原稿を読んだだけや。ここなんです、話題は。やっぱり子供が発信するというキーワードを皆さん絶対に忘れないほうがいいです。孫や子供というのは真剣そのものですから、うまく地域で活用の舞台に引き出してください。こうやって最初は30アールだったのが、いつの間にか1町歩の芋植えに3時間で終わるぐらい、100人出てくるようになったんですわ。400人出てくるから70~80万円の収益金は4時間で終わるんですわ。

2つ目の不満が、鹿児島県肝属は畜産の町です。特に旧串良町は当時人口1万4,000人、牛が何と1万7,000頭いるんです。豚が25万頭いるんですよ、うちの家内を含めたら25万1や。鶏が23万羽いるんですわ。その排便たるや、牛1頭の成牛の排便がどのくらいの目方すると思います？平均大体18キロ、1日にするんですわ。18キロといたら一輪車の半分あるんですわ。集落にその当時200頭ぐらいいたから、4トンぐらい毎日ふんが野積みされるわけや。これが沈下して亜硝酸になって、100メートルボーリングしても水は飲めませんよ、亜硝酸が強いからという社会に広がってきて、畜産公害は臭いだけじゃないんですわ。だけど、臭いだけでも不満があったから消そうとして、こういった活動を提案をして、1年間、朝5時半から交代で土着菌という好気性の微生物を攪拌作業をして、今はこうやって1町歩の益金から60万円するユンボを購入して、これは集落のユンボですよ、そして124平米の丸太小屋の土着菌センターをつくって、スコップ隊をやめて、ああやって攪拌をしてくれるところにはもう8年間、毎月3万円ずつ年間40万円、攪拌スコップ、攪拌料を払っているんですよ。

こうやって、皆さん、今度はこれを土着菌の微生物、ここにいらっしゃる高齢者の皆さん、思い出してください。私、67歳なんです。中学校の時間は「職業家庭」というのがあったんですわ。必ず2時間だったんや。男子は「おーい、4キロまで往復。はい、野道の馬ふんを拾ってこい」と、



乾燥した馬ふんを拾ってきて堆肥つくったもんや。外トイレから、かたげて、人ふんをまたそこにかけて堆肥つくったもんや。これでスイカ食べたらおいしいんや、つくったら。その味が今しないんや。これをやっている、微生物を生かしているだけですわ。

ああやってJAも農業改良普及所も一緒になってタマネギを研究してみようというて、左は土着菌をまいているわけ。これをよく見てください、こんなに変わっているんですわ。これだけの差ですわ。これ並べかえているのじゃないんですよ。葉っぱを見てください、左と右の葉っぱを。作物の基本は土づくりです。微生物です。無農薬、無化学肥料です、基本は。田畑に5,000種類ぐらいの好気性と嫌気性の微生物がいつも生息しているんです。ところが、除草剤で一遍に微生物を殺しちゃうから、土が分解していかないんや。

この差です。なりくびを見てください。野菜の大切なのは、光合成細菌、光をいかに受けられるということの次は、葉っぱが90度立つかということ。スプーン葉といいます、私は元気のない葉っぱは。それはなぜかといったら、スプーン葉だったら直射日光は上しか当たらないじゃないですか。90度立ったら両面に光が当たるから光合成細菌がいっぱい葉につくから、すごい活力の吸収源は微生物のおかげなんですわ。

もう1つはこれです。「柳谷焼酎」というのをつくったんですわ。それはなぜかというのは、理屈が2つあります。



私が55のとき、トラクターや堆肥や苗取りや先導役をしてくれたメインの人は65歳前後だったんですわ。もう13年過ぎますと、その人、13と65といったら80近くになっているんです。もうこの人たち、必ず80過ぎになったらもう労働的に体力限界が来るといのは、私が人口マップをずっとつくった最中で、いつまでも柳

谷は農作業集落だけでは必ずじり貧になるなと思ったから、今50アール、半分に減らしたんです。そのかわり焼酎をつくらうとして焼酎のほうに、1町歩が50アールになって、焼酎「柳谷」になったらこれがばか受けして、すごい財源なんです。売り方は、柳谷に直接来るか、ホームページでクリックしてインターネット通販しかやらないけど、これが大変な財源で、農業をしなくてもこれは永遠に残るんです



わ。PB商品ですからね、プライベート・ブランドという「柳谷」ですから。英語もでくった
 っど。

もう1つは、これですわ、そば屋。時給500円で立ち上げております、300円でした。
 4,000人ぐらい来ると、「昼食は柳谷でとってください。主婦たちが対応します」と言っ
 ています。とらない人はもう後回しや。4,000人掛ける「旬の御膳」1,000円だから、
 400万円ですよ、年間。500~600万円上げるんですよ、そば屋で。主婦たちは中年、
 老人会は70歳からですから、その一歩手前の60代の人たちが交代でしてくれるわけです。
 こうやって皆さん、社会は、人が来るということは本当に誇りになりますよね。

もう1つはね、これが緊急警報装置。今は、左下は感知器です。去年から、法律があと2年
 後には全戸数義務化になったじゃないですか。柳谷はこれをつけてあげているんですよ、上は
 5万円から7万円、遠いところはかかるんですよ。

奇跡が起きるから、ハゲが一向バトンタッチしないんですわ。その奇跡は何かといたら、
 ここなんです。最初私が言ったでしょう。他人の子供のために何ができるかと思ったら、7歳
 ごろまであの感覚を、本物を見せなかつたらだめだって。だから、私は空き家に芸術家を呼ん
 だんです。たったあれだけのことなんです。柳谷で三味線していた人もいたけど、もういない。
 芸術は何にも見せるものがないんです、柳谷では。だから、空き家イコール文化人の社会をつ
 くるために、この本物の感覚を養成させるために呼んだんです。

これが高校生クラブね。ちょっとこれ
 飛ばします。メッセージはさっき言った
 とおりです。



ここです。子供たちが出番をつくる
 というのは2つあって、1つはね、中学校

で因数分解の時間に退屈な人がいるんです。よく聞いてみると、分数のできない、小数点の割
 り算ができないというのが初めてわかったん
 です、私は。だから、柳谷には寺子屋というの
 を外から先生を呼んで、鹿屋の78歳になっ
 ていらっしゃると思うけど、札元に神田橋とい
 う数学のすごい先生を昔から私、知っているん
 です。この先生を私はもう20年ぐらい柳谷に呼
 んでいるんです。そして自治公民館に毎週木曜



日7時半から9時まで来て、この人はよく飲むんだけど、この日だけは休肝日なんです、そして、わからないところを発見して、入り口を教える先生なんですわ。ご存じで、頭が下がります。ありがとうございます。鹿屋には偉大な先生方がいっぱいいらっしゃるんですよ。だから、引き出すっていうことは一番下、人に迷惑をかけない子供さえというのが私たちの社会の義務でもあるかもしれませんよね。

こうやって高校生はね、2人ずつ面倒を見て、5キロこれはサンセットウォーキングして、座禅をしたりしますよね。これは桜島一周を柳谷が定番になって去年から自転車で13時間、桜島の黒神は夜中ですわ、午前様。これすごいことだと思いませんか、子供たちの挑戦は。

これが空き家です。この空き家が。

これは神田橋先生の寺子屋だね。

これは鬼火だね。

これは1万円ボーナス。何のこっちゃないんですわ、1万円ボーナス、178万円配っただけなんですわ。ところが、ここには夢が2つあるんです。



1つはね、私が館長を引き受けてから10年目のこれは夢だったんです。すなわち柳谷は、物語を10年間、私はひそかに描いていたんです。10年目には絶対、のし袋で1万円ボーナスが出せるよねというところまで発信していたんです。この中に1つは、10年間の間に18人が他界してしまったわけ。お悔やみをもらっただけでしょう。

感動の喜び、ビデオ、新聞でも見ないで、そのまま中尾ミエさんを含め逝っちゃったんですわ。私はこの人たちに「10年間ご苦労さんでした」とみ霊に差し上げたかったから、現生で1万円ボーナスを副館長と前日に全戸数回ったんですわ、亡くなられた方。みんな泣かれましたよね。

ここなんです。地域で最も皆さん大切なのは、豊重哲郎は背広着て、ネクタイして、よかにせだから、みんな「わあっ」と言うけど、これは柳谷という文化元年、落人7人が300年前に柳谷に入植してきて、柳谷を開墾やら公民館づくりやら墓地清掃やら、ずっと守ってきてくれた先人たちの偉業の上で、私はただ今歩いているだけなんですわ。進行形なんです。私、何もやっていないんです。だから、皆さん、地域は先人たちの偉業をたたえ、先輩を敬う柳谷というのが私たちの心の教育の仕掛けだったんです。その1つがボーナスをみ霊にまず先にあげ

ようやくやっただけのことで、それでもこれは税務署が目をつけて、「ボーナスまでやったら、もう豊重さん、申告しましょう」と言って、2006年のこの年から五十数万円ずつ所得税、県民税、事業税、毎年払っているんですわ。

これが空き家マップ、これだけ来ています。上を見てください。1号館は医者を持っている、あの世に逝かれた、子供は東京で医者。中が見えなかったけど、手を入れたらこんなきれいになりました。これが2号館、3号館、4号館、5号館、6号館、7号館まで来ました。

5号館を見てください。テレビであったでしょう。左上、荒れ放題でしょう。集落がこれをこういうぐあいに改装したら、枕木からどんと導入して、そして牛小屋を「めったに見られない美術館」と名づけて、看板を先に上げちゃったんや。なぜ



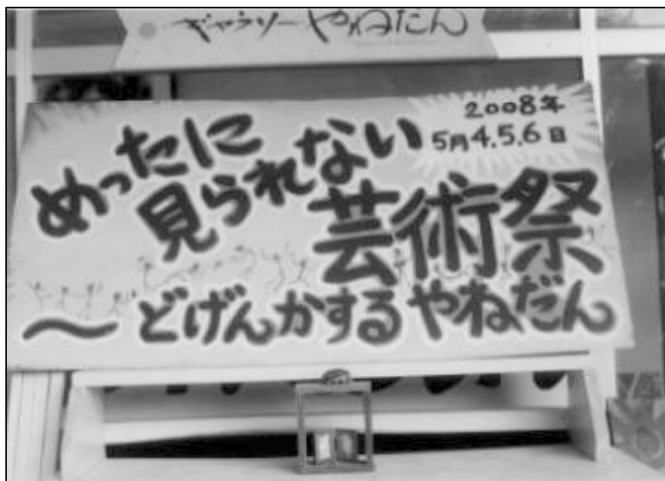
上げたか僕しかわからないんですわ。上げないと急がないんや、この連中は。だから、慌ててどんどん個展を開き始めたんですわ。だから、仕掛けはおもしろいって。こうやって皆さん、本当の空き家に人が今、プログラマーを含めて8人来ている。これに夫婦組が来ているから12名来ているんですわ。あと二十数名スタンバイ、待っているんです。柳谷に行きたい、行きたいって。

ことはもうバージョンがそろったから、次のテーマに変わりました。それは、空き家を整備して、手を挙げさせて、農業Iターンを受け入れます。そして、いちたい老人宅では「来てくれてありがとう」と言うけれども、「農業も機械も対応しますよ」と言うけど、一番心配するのはばあちゃんなんです。「都会から来た人、よそから来た人に料理はできない、賄いはできない」って言うから、だめだから、1カ所に5~6人ずつIターンを寄宿させて、集落の主婦たちが賄い役を組織化してというのをやりますから、柳谷から大隅半島だったらどこへでも就労させる予定、これ4月に募集します、多分すごい人が応募するでしょう。こうやって土着菌で土づくりからやろうよという形の農業Iターン募集がことしのテーマで。

これが7号館。

右が、中尾ミエさんが昨年亡くなって、すぐ貸してくれましたよね。これが柳谷に3泊4日してリーダー養成塾をやっている3~4のメンバーたちです。

最後に、これを見てください。「めったに見られない芸術祭」、行けば何とんしれんたっけど、滅多に言うから来るわけでしょう。人を呼びつけるにはやっぱしテーマも必要だということ



とです。

あわせて右下を見てください。老人70歳以上に1票ずつ審査投票券を与えているんです。中学生以下30名ぐらいに投票券をやって、100票ぐらい老人と子供で審査して回って、一番得票した人に鹿屋市長賞、金1万円とやったら、みんな真剣なんですわ。要するに、芸術、アーティストに興味のない人たちをも参加させるための投票券なんです

わ。これがアイデアだと私は今、宣伝しているところです。だから、「おれ、画家、そんなの知らない。陶器、興味がない」という人たちがたくさんいるんですわ。柳谷はダンプで30台ぐらいいるんですわ。この人たちが動き始めるから、底辺が動くはず。これ入り口を投票に審査券を与えただけです。

シルバーカー18台、これ2万5,000円かかるけど、50万円投下したんですよ。これ貸しているんです。亡くなったら使えるのは次へ回すんです。盗まれないために「柳谷」とみんな書かせているんですわ、画家に。はあ、あの世には持っていかせません。人口がおまけでこれだけふえたんです、芸術家はほんのわずかだけれども。

こうやって皆さん、最後は、私が地域再生と言いますが、大腸がんをしました、私は。最悪の場合5~6年と言われました、原口院長から。でも、私はことしの1月10日で5年過ぎました。検査しました。「豊重さん、不思議だ。あんたは病人じゃなかった」と、平気で切っとな。 「99%再発しません」と言われた。だから、私は命拾いしたから、今、余計、社会にはおまけとして余力をばらまこうとしているのが私の1日なんですわ。だから、皆さん、こうしてください。治癒力を信じてください。医者は信じなくても治癒力は信じなさい。医者は5割でいいって、あとの5割は自分の体力と血流とイメージ。だから、笑って、笑った毎日のゴールを切ってください。

こうやって私もきょうは大先輩たちの前でお話をさせていただきまして、まとめはこれだけです。帰られたら、若い青年にも、行政にも言ってください。まず、「地域は活性化するためにはどうし



たらいいか、リーダーよ」って。円満な輪、よこものがおってもそれは宝と思って寄り添って
いけということ。先人たちの偉業をたたえて、先輩を敬うあいさつから始めなさいということ
が、感動と感謝の認め合いの社会を鹿児島県つくろうじゃないかというのが創生塾の1つのテ
ーマ。

2つ目、金がなかったら人も育たないし、活動もできない。でも、補助金は要らないけど、
地域でできることを地域で生産、加工していけば、そのお金をいかに経営させていくかという
立派なリーダーがどうしても必要だよなって。

3つ目は、皆さんを含めて、みんな社会に貢献したいんですわ。でも、忙しい、貧乏してい
る、なんどこいじゃなかという理屈はさておいて、1年間に10時間、社会に何か没頭して貢
献していこうやという、皆さん、福祉協議会から10時間宣伝を計画してみたらどうですか。
できないはずはありませんよ。

最後は、依存なんです。鹿児島県も行政に依存をしなかったら社会は秩序もなくなるし、前
に進みません。依存するためには地域の行政マンにもどんどんエールを送り、褒めたたえて、
その気にさせてください。

これが私が体験してきた小さな体験の一コマの1時間でした。どうぞ皆さん、福祉
協議会というのは大変でしょう。でも、勇気と
度胸を持てるような社会づくりに皆さんエ
ールを送って、汗してください。感動の1日を過
ごしてください。

最後までご聴話いただきましてありがとう
ございました。またお会いしましょう。(拍手)

もう鹿屋の審査員が前におるもんだから、上
がりました。ありがとうございます。

